# 奥州市環境基本計画　計画策定委員会（第５回）議事録

○ 日　時

令和８年10月 20日（火）　14:00～15:50

○ 会　場

奥州市役所本庁舎　７階　委員会室

○ 出席者等

委　員

渡邊ユリ、若生和江、渡邊登、佐々木孝、渋谷晃太郎、花澤淳、小島尊史、紺野財産運用課課長補佐（代理）、本明満、千田充、千田有美

事務局（GX 推進室）

千葉室長、及川主幹、大内副主幹、高橋主任、アジア航測株式会社

（生活環境課）

村上生活環境課課長補佐、後藤環境係長、小原生活衛生係長

欠　席

【委員】　千葉一彦、小澤悟、廣野基宣

○ 次　第

１　開会

２　挨拶

３　協議

(1) 目指すべき環境像について

(2) 計画案に対するパブリックコメントの実施について

(3) 計画案について

(4) その他

４　その他

５　閉会

| | |
|---|---|
| 1　開会 | |
| 及川主幹 | 開会に先立ちまして、私の方から会議の成立についてご報告いたします。<br>本委員会につきましては、奥州市環境基本計画策定委員会設置要項第5条第2項の規定によりまして、委員の半数以上が出席しなければ開くことができないと定められております。本日、委員14名中10名の委員が現在出席しておりますので、本委員会が成立していることを御報告いたします。<br>それでは、ただいまから第５回奥州市環境基本計画策定委員会を開会いたします。<br>よろしくお願いいたします。 |
| 2　挨拶 | |
| 及川主幹<br><br>渋谷委員長 | はじめに渋谷委員長からご挨拶をお願いいたします。<br><br>皆さん、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。<br>議論もだいぶ佳境に入ってきて、だいぶ厚い報告書になってきました。今日はお目通しいただいていると思いますので、本体の方の完成に向けてご意見をいただければというふうに思いますので、よろしくお願いいたします |
| 3　議事 | |
| 及川主幹<br><br>渋谷委員長<br><br>大内副主幹 | それでは早速でございますが、議事を進行してまいります。<br>進行については委員長にお務めいただくことになっておりますので、よろしくお願いいたします。<br><br>はい、それでは今回もよろしくお願いいたします。早速、次第に従って進めてまいりたいと思います。途中長くなると思いますので、途中トイレ休憩を挟んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。<br>まず、最初に目指すべき環境像について、事務局からご説明をお願いいたします。<br><br>はい、GX推進室の大内でございます。私の方からご説明を申し上げます。<br>最初に、目指すべき環境像につきまして、奥州市環境基本条例第10条第2項第1号の規定に基づく目指すべき環境像として今回位置づけております。<br>事務局案の方をご提案申し上げます。 資料の２ページ目の方をご覧ください。<br>１番上、目指すべき環境像について、「（２）目指すべき環境像」今回事務局案につきまして、黒い彩りのところの方に表示をさせていただきました。今回事務局案といたしましては、これまで第１次から第２次計画で目指すべき環境像として設定をしておりました、「未来を見つめる100年循環都市、地球と共存する奥州」をそのまま主題として残しまして、副題として「豊かな水と緑を未来へ。循環と共生でウェルビーイングの実現を目指すまち」ということでのご提案を申し上げたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| | まず、主題についてポイントでございます。これまで第１次から第２次計画までおよそ20年間、こちらの目指すべき環境像を基に、環境行政が進められてきたところでございます。100年というところで銘打っていたところですが、まだ80年残されているということも含めまして、この環境像を維持することで、これまでの環境基本計画の連続性や、奥州市の環境行政の連続性について配慮したいというところでございます。<br>２点目です。現在策定を進めております、次期第３次計画の内容を踏まえた上で、これまでの目指すべき環境像につきましても、様々、必要な要素が含まれているということが言えるかなというところでございます。<br>続きまして、副題についてのポイントでございます。まず冒頭の「豊かな水と緑」につきましては、奥州市環境基本条例の前文からの引用でございます。今回の計画におきまして、様々な形で自然資本、生態系サービスといったような重要な要素を、どのような形で表現するかと考えていたところ、条例の前文の方に、より一般の方に分かっていただきやすい、親しみやすい言葉で、豊かな水と緑ということで象徴的な表現としてふさわしいものと考えたところです。<br>続きまして、「未来へ。」というところで、市の豊かな自然をはじめとする環境を次世代へ引き継いでいく意志を表現しております。<br>３点目に、「循環と共生で」というところで、今回計画の２つの大きな柱になる資源の循環と生物多様性の増進など環境との共生という部分を盛り込んでございます。<br>最後に４番です。国の第６次環境基本計画におきましても、最大の目標としておりましたウェルビーイングへの関わりというところで、これの実現を目指すというところで盛り込んだところでございます。<br>以上、事務局案に関する説明については終わりとなります。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございました。<br>ただいまのご説明について、ご意見いただきたいと思うのですけれども、今回の会議で目指すべき環境像というのは決めるということになっているので、修正とかもしありましたら 挙手の上、ご発言お願いしたいと思います。いかがでしょうか。 |
| 渡邊委員 | 後でもちょっとお話させていただくことになると思うのですけれども、環境像に関しては、良くここで説明されているというふうに思います。よく今後の、その計画に対して的確な表現をされていると思うのですが、循環と共生と協働という言葉を、やっぱり入れた方がいいのではないかと。詳細の説明を後でさせていただきますけれども、やはり自立、自治、協働というものを、その中に含み込むということが必要ではないかということを考えておりまして、その意味では、できれば協働という言葉がその中に入ればいいかなというふうには思います。<br>で、もちろんそれが入らない場合には、やはりそれを本文で詳細に説明していくということが必要かなと思っております。また後に説明させていただきますけれど |

| | |
|---|---|
| | も、環境像に関しては以上です。よろしくお願いいたします。 |
| 渋谷委員長 | はい、わかりました。具体的にはどこら辺に入るといいのですか<br>ポツって３つ入れていくかどうかですかね。循環ポツ、共生ポツ、協働という感じ。なるほど。 |
| 渡邊委員 | 本文で説明してくっていうような形が望ましいかなというのが私の意見です。<br>はい、以上です。 |
| 渋谷委員長 | 他にはいかがでしょうか。ただいまのご意見についても何か、その方がいいとかありましたら伺いたいと思います。みんなで作っていくっていう意味では、協働を入れた方がいいのではないかというご意見です。事務局の方はいかがでしょうか。 |
| 大内副主幹 | はい、お答えいたします。<br>まず、渡邊委員から18日までの事前のご意見の提出をいただいておりまして、それについての対応は後でまとめてご説明いただくときにお答えを差し上げるのかなと思っておりました。もし一応、副題、結構長くなってしまっていたのであれだったのですけれども、協働という単語を入れさせていただくという場合であれば、改めて事務局案としましては、循環と共生の「と」を取ってしまって、「循環・共生・協働でウェルビーイングの実現を目指すまち」であれば、語呂というか、語感が良くなるかなと思って今お聞きしたところでございます。<br>「豊かな水と緑を未来へ。循環、共生、協働でウェルビーイングの実現を目指すまち」というような雰囲気だといかがかなと思ったところです。以上です。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございました。みなさまいかがでしょうか、修正をしない方がいいのか、した方がいいのか。何かご意見ありましたら。はい、若生委員。 |
| 若生委員 | 遅れてすみませんでした。<br>26ページのところには、今渡邊委員がお話になったいろんな課題を解決していくには、人口も減っていろんなことが起きている中で、協働でやっていく方がいいよってことがしっかり書かれてあるので、その本文のところでというのでもいいかなというふうにも思います。この計画全般について、どこか一カ所だけが頑張るのではなくて、みんなでやっていくのですよっていうことがとても大事に書かれてあると思いますので、今の点については、そのことを頭においてちょっとみんなでどれが適しているかというところを話していければいいのかなと思います。以上です。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございました。他にもいかがでしょうか。<br>それでは、目指すべき環境像については、ただいま渡邊委員、若生委員からもご |

| | |
|---|---|
| | 提案ありましたけれども、副題の方に協働を加えるということで、決めたいと思いますけれどもよろしいでしょうか。特にご異論ございませんでしょうか。それでは、その方向で決めていきたいと思います。ありがとうございました。<br>　続きまして、計画案に対するパブリックコメントの実施につきまして、事務局からご説明お願いいたします。 |
| 大内副主幹 | 　続きまして、計画案に関しますパブリックコメントの実施についてご説明を申し上げます。<br>　まずパブリックコメントにつきましては、奥州市自治基本条例に規定された手続きとなっております。環境基本計画の計画案を一般に公表いたしまして、広く市民の皆様からのご意見を受け付けるという手続きとなっております。<br>　資料２番目の対象者や実施内容です。一部修正も含めてご説明を申し上げますので、ご容赦ください。<br>　まず対象者につきましては、市内に居住、通勤、通学をする方となります。期間につきましては、１か月程度行うようにということでしたので、１か月程度、期間を準備する予定としております。予定といたしましては、令和８年12月４日から明けて１月４日までの１か月間を予定としているところです。<br>　３番目、方法です。主に市ホームページ及び各庁舎に計画案を備え付けいたしまして、書面またはLoGoフォームという電子申請のフォーマットを使いまして、意見の方を受け付けたいと考えております。<br>　４番、その他です。事務処理上どうしても必要となりますので、以下のような条件を付す予定としております。<br>　まず意見提出につきましては、ご意見をいただく方のご住所、お名前、ご連絡先の記載を必須とさせていただきます。あわせまして、日本語でのご提出、ご記載をお願いしたいと考えているところでございます。ご提出いただいたご意見に対しまして、市はそれぞれ回答の方を作成いたしまして、提出意見の本文の部分とともに、市ホームページ上で公表を予定いたします。この際には事前に提出時にいただいた氏名・住所等については公表いたしません。また、提出意見に対する個別の回答はできかねますということでのアナウンスをしたいと考えております。<br>　次の部分が、一部修正を差し上げます。所定の様式をご用意いたしますので、所定の様式に基づいたものであれば、電子メールや窓口での提出、郵送、ファックス、すべて受け付けることとします。受付できないのが、所定の様式に基づかない電子メール、本文にダイレクトに書かれたものですとか、あるいは口頭、電話での音声での意見の受付はいたしかねますということでございます。できるだけ広く受け付けさせていただきますので、所定の様式に基づいたものであれば、ご持参、電子メール、郵送、ファックス、期限内に到着したものであれば、すべて受け付けるものといたします。<br>　あわせて、LoGoフォームについては、フォーマットの方でその様式の要件を満たすように作成いたしますので、こちらはすべて受け付けるということになります。 |

| | |
|---|---|
| | 最後の部分です。期限を超えてしまったものにつきまして、あるいは提出方法のルールを守っていただけなかったものにつきましては、大変残念ながら無効とさせていただきます。あわせて、特定の個人・団体等を誹謗中傷するようなもの、財産・プライバシーの侵害等を心配される内容のもの、法律に違反するような意見等につきまして、記載の部分につきましてはすべて無効とさせていただきます。<br>最後に、パブリックコメントを行うことについての周知方法についてですが、市広報誌への掲載と市ホームページに掲載を予定しているところでございます。<br>以上、パブリックコメントの実施についての説明でございます。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございました。<br>ただいまの説明について、ご質問、ご意見等ありましたらいただきたいと思います。12月から年明けぐらいになるのですか。 |
| 大内副主幹 | はい、12月からです。 |
| 渋谷委員長 | 特にやり方については、通常のやり方ですよね。 |
| 大内副主幹 | はい、通常です。 |
| 渋谷委員長 | 特によろしいでしょうかね。はい、それでは12月に意見聴取をお願いしたいと思います。２に関する協議はこれで終わりたいと思います。続きまして、計画案につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。 |
| 大内副主幹 | それでは「３　計画案について」ご説明を申し上げます。<br>はじめに、これまでのスケジュールと、ここから先のスケジュールをご確認いただきたいと思いますので、横に開いたスケジュール表と、電子データでご覧の方は、03番のPDFの方をご覧いただければと思います。これまでご協力いただきまして、ここまで進めてきたところでございます。<br>本日10月20日、計画策定委員会の５回目の後に、11月18日にパブリックコメントの実施及びそこまでの計画案についてのご審議をいただくための、奥州市の環境審議会を予定しているところです。11月下旬以降に、環境審議会の方でOKをいただきましたら、その計画案をパブコメ用の計画案としまして、次の手続きに進めてまいるというところでございます。<br>11月18日に環境審議会が開かれますが、そちらの委員の皆様には、計画案を事前に配布をしたいと事務局の方で考えておりまして、可能であれば11月の上旬には各委員の皆様のお手元にお届けをしたいと考えております。そこから振り返りますと、現在ご審議いただく計画案に対しての修正につきましては、印刷等の時間も考えますと、おそらく10月の末頃までには一定の形が整っているということが必要と見込まれております。 以上、現状のスケジュールについてのご説明でございます。 |

| | |
|---|---|
| | それらを踏まえまして、今回、冊子でお配りしたもの、PDFの方は容量が大きいために、「999_計画案」という計画案のフォルダの中に分散して保管させていただいておりますが、 こちらの計画案、前回の７月22日に開催いたしました計画策定委員会の後にお示しした計画案から修正を何点か行っております。<br>まず、各指標、取組、施策を追加いたしました。当時掲載しておりませんでしたが、コラムをすべて掲載いたしました。第１章及び第３章に、2026年、今年の９月に国連環境計画の方での報告書が挙げられましたので、その最新の内容について触れております。 主な内容といたしましては、パリ協定で目指しておりました地球温暖化の世界の気温1.5度目標という部分が、こちらも達成ができないような見通しであるというところを前提内容とした報告書でございましたので、その部分について第１章及び第３章に追加の記載を行っております。続いて、前章、前の章と第４章、資料編、情報確定部分までということになりますが、作成して載せております。本文内に図、表、グラフ、写真やイラストなどを配置いたしております。あと所要の整理となっております。<br>まず、計画案の変更点については以上でございます。こちらにつきましては、10月18日までを一旦期限といたしまして、ご意見の方は委員の皆様から募集をしたところで、渡邊委員からご意見をいただいておりました。 あと指標等につきましては、議論の中で改めてまたご説明させ上げる機会があろうかと思いますので、一旦事務局からの計画案に関する説明については以上とさせていただきます。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございました。計画案についてどういうふうに進めますかね。全般的に伺っちゃいますかね。分けないでいければと思います。<br>まず、渡邊委員の方から出されたご意見については、机上に配布されていると思いますので、まず渡邊委員からちょっとご説明をいただければと思いますので、よろしくお願いします。 |
| 渡邊委員 | 事務局の方から計画案というのを配布いただいて、これは分厚いなと思ってびっくりしました。なお、18日までに意見をとなっていたので、さらにびっくりをして、これはちょっとどうかなって思ったのですけれども、非常に事務局の方々のこのご努力に報いなければいけないなというのもありまして、他市で仕事があったので、16日まで時間がなかったのですけれども、16日はなんとかということで、さすがに全てのところに完全に目を通したかと言われると、ちょっと心もとないところがあるのですけれども、できるだけ全部を配読しながら考えたところについて、これはお示ししなければいけないなと思いまして、A４一枚でまとめさせていただきまして、提出させていただいたということです。<br>ただ、これを読んだだけではわかりにくいところがございますので、若干ちょっと詳細に説明をさせていただければなというふうに思いました。必要に応じて、どこを参照したのかということについて、ページについて言及させていただきますけれども、間違っていたらご容赦ください。今回提示させていただいた意見は、事務 |

| | |
|---|---|
| | 局が作成された計画案の基本的な方向性を否定するものではありません。第３回の委員会で私も問題提起させていただいた、環境と経済と社会を統合的に捉えるという考え方が、今回の案には相当程度反映されているということもあり、非常にそれは賛意を表明したいと思います。また、第３章の211ページ以降ですか、国の第６次環境基本計画を踏まえて、分野横断型の取組が明確に位置づけられていると、これを高く評価したいと思います。その上で、ここでお話したいのは、環境・経済・社会の統合的向上という理念を、奥州市の地域社会の在り方、さらにそれを実現する制度や仕組みにどうつなげるかということです。それで、まず第１の意見で、先ほど出た目指すべき環境像ですね。これについて最初に説明をさせていただきたいと思います。第２章の35から38ページになります。非常にここは関連に書かれていて、次の第３章につながるということになるわけですけれども、目指すべき地域社会の姿というのがここで描かれているわけです。<br>　この原稿案で評価する点というのは、未来を見つめる100年循環都市、先ほどのお示しいただいた環境像。地球と共存する奥州を継承して、循環と共生とウェルビーイングを重視しているということです。これは先ほど、第６次環境基本計画の理念を継承している、それを生かしているということになっていますが、まさにここでは、大量生産、大量消費、大量廃棄、それと環境危機を結びつけて、まさにプラネタリーヘルスの概念から、人間社会が自然環境の一部であるということを明確に示している点、これは非常に評価すべきだと思います。<br>　その中で補足をいただきたいなと思うのは、循環と共生を奥州市という地域社会に即して、どう実現するのかという説明が、もうちょっと必要なのではないかということです。まさに奥州市の豊かな森林、農地、それから水、それが再生可能エネルギーなどを、地域が持続的に管理・活用して、地域生活とか地域経済や生活の向上にどう結びつけるかという方向性を明示することが望まれると思います。例えば、再生可能エネルギー事業で収益が域外に流出する場合と、地域内に還元される場合では、地域社会への効果は異なります。もちろん地域内利用が常に優越するわけではないわけですけどね。例えば環境影響とか、事業性とか、あるいは系統連携、系統条件とか、あるいは住民参加ですね。その条件などを考慮しながら考えなければいけないということです。<br>　第３点としては、先ほどやはりこの協働ということを環境像に入れていただきたいと言ったのは、協働だけではなくて、本文の中にも出されている自立・協働、さらにその自治、それと自立・自治・協働と共生との関係というものが、この中でさらに示して説明していただくということが必要なのではないかということです。<br>　だから原稿案の循環と共生に、先ほどもうすでに協働を入れてくださいとお話しましたけれども、含みとしては、原稿案の循環と共生に地域の自立性、それから自治、それから協働として補うということが提案の要点であります。ですから協働を入れていただいて、それを本文でいわゆる自立と自治という問題を説明で補っていただければなと思います。これもその時にまだ書けてなかったので、お示ししていなかったのですけど、具体的な改正案というのを考えていまして、これずらずらっ |

| | |
|---|---|
| | てしゃべってはあまり意味がないかもしれませんけど。あとで必要であればファイル差し上げますね。メールで添付ファイルをお送りしますけど、具体的な改正案として、例えばこんな感じです。<br>「また、奥州市が有する豊かな森林、水、農地、再生可能エネルギーなどの地域資源を保全しながら持続的に活用し、地域内の資源や経済の循環を促進するとともに、他地域との連携を通じて相互に支え合う地域循環共生圏の形成を目指します。」<br>だから地域循環共生にやはり持っていきたいっていうのが、私はそれをやっぱり入れていただければなというのがあります。地域循環共生圏の実現にあたっては、まさにここから協働と自治って話になるのですが、「市民、事業者、市民団体、行政などが地域の将来像や環境課題を共有し、主体的な参加と協働によって取組を進めていくことを重視します。」とかですね、そういう形で文章を入れたらいかがかなというのが私の意見です。結局、結論的には、環境像の全面的変更ではなくて、地域資源の持続的な利用、地域経済循環、住民参加、協働という形で理念を具体化することを提案するということです。地域資源の持続的な利用、地域の経済循環、住民参加、協働と、住民参加で自治と協働ですね。という形で理念を具体化することを提案させていただきたいというのが第一の意見です。<br>これ第4まであるので、長くて申し訳ないですけれども、第2の意見は、施策を支える制度と基盤についてです。第3章の45ページと、あと気候変動分野の施策でいうと、生活環境のところ、165ページから196ページですか。あと、環境人材のところで197ページから210ページ、環境人材ですね。<br>第3章の構成としては、その45ページで現状と課題、施策の方向性、それから指標、取組や施策を整理されていて、市民、事業者、市民団体、市の主体別に役割を示されています。この見やすさは維持すべきだと思います。ただし、主体別の列挙だけでは、どのような制度の下で連携するかが見えにくい場合があるのではないかと思います。それから第二としては、生活環境で一人一人の取組と制度というところがあります。これが165ページから167ページを中心になんですけれども、環境像の4として、一人一人の取組で快適で豊かな生活環境を目指すというのが環境像4です。しかし、環境リスク、大気汚染、空き家、空き地、景観などは、個人の行動だけでは解決できないということがあります。相談体制とか、情報提供、規制、それから行政サービス、あるいは協働管理を含めて考える必要があるのではないかと。つまり、ここの生活環境のところで言うと、修正の例としては、一人一人の取組と制度をさらに発展させて、市民、事業者、行政の協働で、安全で快適な生活環境を目指すというのはあくまでも例ですけれども、このような形でアップしていくというか、一人一人の取組からさらに協働を含めた形で、ここに入れ込んではいかがかなというふうに思いました。<br>それから、環境人材ですけどれも、ここは非常に素晴らしいことで、 環境教育、学習、ネットワーク形成、産学官民のプラットフォームが重視されています。これは非常に高く評価すべきだと思います。ただ、それだけではなくて、さらに学んだ人々が地域の環境課題を発見して、さらに政策形成や実施、それから評価に関われ |

| | |
|---|---|
| | る仕組みを考える余地があると。ただ単に環境教育で学んでいくというだけじゃなくて、この市の施策に関わるような参加ですよね。参加あるいは行政的で参画ですか、そういう政策形成や実施評価、形成だけじゃなくて実施評価にも、ここで学んだ人々が実質的に関わると、そういう仕組みというか枠組みを作ってはどうかと。まさに自治となっていくわけですけども、つまり自治とは、行政の仕事を住民が肩代わりすることではなくて、 環境政策の選択と形成に参加することではないかというふうに思います。もともと住民自治を唱えていた人間なものですから、これはなかなか外せないなというふうには思ったりします。結局ここで確認すべき項目としては3項目。関係する主体は誰なのか、そして協働を支える制度、それから参画機会は何なのか、さらに、そのための行政が担う基盤整備、支援とは何なのかと、そういったことが確認すべきなのではないかと。<br>　この第二の提案としては、一人一人の取組と制度という個々の主体の努力に加えて、それを支える連携の仕組み、参画機会、制度的基盤を明確にして計画の実効性を高めるということが第二の提案となります。<br>　第三の意見ですけど、ここは環境省が非常に主張されているところでありますけども、地域循環共生圏ですね。地域循環共生圏と分野横断の取組ということで、これは第三章の211ページから218ページで、 特に211ページから213ページですね。ここなのですけども、211ページに分野型の取組の必要性というのが書かれています。これはまさに第6次、国の環境基本計画を踏まえて自然資本を基礎とした環境・経済・社会の統合的向上と課題間の相互関連性を説明していると。これはまさに第3回委員会で私なども指摘させていただいた内容と整合するものです。ただし、一つの施策が複数分野に効果を生むということ、マルチベネフィットと地域内外の資源経済、主体の関係を組み直す地域循環共生圏は同じ概念ではないということです。 2として211ページから212ページで、 3 - 2ですね。一つのアクションが広げる分野横断型の好循環。これもなかなか非常にわかりやすくていいですよね。木材利用の例では、炭素貯蔵や水源涵養、生物多様性、林業への波及などが示されています。212ページの水沢中学校の県産材利用もわかりやすい事例です。だからこれ見に行きたいなという感じは、非常にするような魅力的な校舎ですよね。<br>　さらに地域循環共生圏の視点では、適切な森林管理、それがさらに林業、製材、建築事業者の連携、それがさらに雇用や所得へ波及し、さらにそれが森林整備の再投資につながっているという仕組みの形成が論点になるだろうと。ただし、県産材を使っただけでは、この循環が実証されるとは言えない。やっぱり、この循環、森林管理、林業、製材、建築事業者の連携、それが雇用、所得に波及し、さらにそれが森林整備の再投資に向かうという循環がそれを形成していくというのが論点になるのではないだろうかということです。<br>　次に、213ページの分野を超えた協働でウェルビーイングを目指すというのがその部分です。市民、事業者、学校、行政などの協働に加えて、ここでは水沢工業高校の実践例が示されますよね。水沢工業高校のアルミニウムのアップサイクルの事例が挙げられています。まさにこうした具体例がすでに存在するからこそ、これを地 |

| | |
|---|---|
| | 域づくりの方向性として一般化する意義があるということだろうと思います。<br>もし開始するとしたら、どんな場所でどういうふうに分類が考えられるのかということなのですけれども、ここで言うと3-3の後、または3-4の前後に、3-4マルチベネフィットの取組例の前後に、地域循環共生圏の形成に向けた取組という小項目を設けるという案です。これ例えばどんな文章を考えられるのかということなのですけれども、「奥州市の豊かな森林、水、農地、再生可能エネルギーなどの地域資源を保全しながら持続的に活用し、地域における資源や経済の循環を促進するとともに、多地域との連携によって相互に補完し合う地域循環共生圏の形成を目指します。だから地域循環共生圏は地域の中で循環するのみでなく、他の地域の循環共生圏とも共生しながら、さらに広い循環も目指していく」というのが理想的であるわけですけれども、「そのため、市民、事業者、市民団体、学校、行政などが地域課題や将来像を共有し、それぞれの知識、技術、経験を生かして協働するための制度や機会の充実を図ります。<br>また、再生可能エネルギーの地域内利用、持続可能な森林資源の活用、農林業と資源循環の連携など、 環境保全、地域経済の活性化、市民生活の向上を一体的に進める取組について地域特性を踏まえながら検討を推進します。 結論としては、まさにマルチベネフィットの理念を奥州市の地域社会の資源循環と主体間連携の仕組みに接続する」というのが第3の提案です。<br>最後の提案ですけど、第4の提案です。これは前から私ができればということで言っていたところですけれども、VPPなどの分散型エネルギー資源の統合的活用です。どこかというと、気候変動緩和分野の61から80ページですか。適応分野で言うと81から110ページです。さっき大内さんからご説明がありましたけど、国連環境計画がもうすでにオーバーシューティングというようなことを確かに言っているのですけれども、専門家の方々で言うとオーバーシューティングというのは、それで1.5度を超える、いったん超えるのだけども、さらにそれをまた戻るということが可能なのだというふうにどうも言っているわけですよね。だからそれにも向けて奥州市もオーバーシューティングを目指していったらなというふうに思います。<br>まず今の、その分散型エネルギーシステムの統合的活用に関して言うと、まず既存の施策との関係ですよね。現在のその緩和分野には再生可能エネルギー、蓄電池、Ｖ２X、地域新電力、公共施設への導入、事業者間の連携などが示されています。緩和施策だから、61ページから80ページですかね。こちら私の方が提案させていただく内容は何かというと、既存の施策の置換ではなくて、個別設備や需要側の調整能力を地域全体でどのように活用するかという視点の追加です。<br>そこでVPPというのが出てくるわけですけども、VPPというのはバーチャルパワープラント、仮想発電所ですね。これは家庭や事業所、公共施設などに分散した発電設備、蓄電池、EV、調整可能な電力需要などを、ICTなどで統合制御して電力受給調整などの機能を発揮させる仕組みですね。だから想定例としては、家庭では太陽光、蓄電池、事業所は設備や調整可能な需要、公共施設は太陽光とか蓄電池で、それを統合制御、受給調整して再エネの有効活用を図る、受給調整を行う、主 |

| | |
|---|---|
| | 体間連携を行うと。<br>効果は設備構成やもちろん事業性とか制度によって異なりますけど、事業性っていうのはやっぱりちゃんと測っていかなければいけないので、それが可能かどうかはまだ実際には検討されていないので、そこからだとは思います。奥州市における検討意図、留意点なのですけども、奥州市は住宅、事業所、農業施設、公共施設などの分散資源が存在するため、統合的な活用可能性を調査するのは非常に意義があると思われます。ただし導入による経済効果や地域循環というのは自動的に生じるわけではないので、その所有運用とさらに誰が所有するかとか、どういうふうに運用していくのか、費用負担はどうなのか、収益配分はどうなのか、あるいは参加条件、いろんな制度設計が必要となります。<br>またVPPは通常時の需給調整の仕組みで停電時の電力供給を保証するものではありません。ただもちろん災害時の利用にはですね、例えば自立運転機能がどうするかとか、系統からの切り離しとか、容量確保との条件が整えば、これは非常に停電時、あるいは災害時の非常に有力な仕組みとなっていくと思われます。市としてどういうふうに取組をするのかっていう追加文案ですけれども、こんな文案をちょっと考えてみました。<br>「家庭、事業所、公共施設などに分散する再生可能エネルギー設備、蓄電池、電気自動車などを効率的に活用するため、VPP、仮想発電所などの分散型エネルギー資源の統合的な活用について、 地域特性、技術的条件、事業性、関係主体の役割等を踏まえて導入可能性を検討します。」と。すぐに導入できるわけではないと、ただ、資源はちゃんとあるのだと。それをどううまく組み合わせていくか、どう採算性を考えながら事業性を考えながら、進めていけるのか、関係主体は誰なのかとかですね。そういったことを検討し、今後の奥州市としての取組を進めていければ、あるいは始めていければということです。<br>VPPの事業化の決定をここで求めるものではなくて、既存の再エネや蓄電池というものがあるわけですから、それをどう結びつけられるのかということを施策として、とにかく将来的な検討対象として位置づけてはいかがでしょうかということが４つ目です。すみません、長くなって、最後に結局４点説明させていただきました。<br>今回の計画案では、環境、経済、社会の統合的向上や分野横断の取組が明確に示されています。その方向は基本的に私も大賛成です。ただ、私が補足したいのは、こうした考え方を奥州市という地域社会でどう具体化するかという点です。<br>第２章では、地域循環共生圏、それから地域資源の活用、地域経済の循環、主体的参加と協働を明確にすること、第３章では個々の努力を支える制度とか基盤とか分野横断の仕組みを具体化すること、そして脱炭素分野では再エネや蓄電池を統合的に活用する仕組みも将来の検討対象にすること。これらは計画案の方向性を変更するというよりも、ここの理念と施策をつなぎ合わせて実効性を高めるための提案です。特に第２章の環境像は、今後の政策全体の基本方向を示すものですので、この段階で地域循環共生圏とか協働というものをどう位置づけるかをご検討いただけ |

| | |
|---|---|
| | ればと思います。すみません、非常に長くなってしまったのですけども、以上で私の説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございました。かなり具体的な内容を示していただきまして、ありがとうございます。事務局の方いかがでしょうか。 |
| 大内副主幹 | ありがとうございます。<br>まず、渡邊委員に具体的に案としていただいた分につきましては、是非データでいただければと思っておりましたので（逆に提供をご提案いただいて）ありがとうございます。<br>あわせて、場合によってはちょっと大きめの変更になる可能性のお話がありましたので、そこを確認させていただきたいと思います。<br>一番初めの目指すべき環境像につきましては、先ほど環境像自体の副題に協働という文言を盛り込むことが決定されましたので、それを踏まえてその環境像の下にあります説明文のところに、協働という部分を触れようと思っておりましたので、そちらについては若干の文書の表現の変更を追加という形で行おうかなということで今イメージをしていたところでございます。<br>２点目、生活分野の分野別環境像の、一人一人の取組での部分を市民、事業者、行政の協働によりというような冒頭の文言のご変更について触れられたかなというところがございました。<br>もし、委員会のご決定ということで、分野別環境像のこの一人一人の取組で快適で豊かな生活環境を目指すというこの言葉自体を変えられるということであれば、ぜひこの場でご決定をお願いしたいなというのが１点と、 あともう１つは、仮に変えなかったとしても、渡邊委員のご意見をどのような形で取り入れるかというふうに考えた場合に、各分野別環境像の表示のすぐ下に、太字でその分野別環境像の全体を総括している、３～４行以内でまとめられている短文があるのですが、この部分に今先ほどご説明ありました、その協働という部分、複数の主体による協働という部分を、説明を追加するというのでもよろしいのかなということで、今ちょっと頭の中で２通りアイデアが浮かんでいたところでございましたが、もし文章を変えることであれば、後日またお返しするということが可能なのですが、環境像自体の文言を修正されるということで、委員会の方で決められるということであれば、ぜひこの場をご利用いただければなと思ったところでございます。<br>続いて同じく第２の中で、市民が評価等に参画をするような仕組みづくりというところでのお話がございました。この部分につきましては、「第４章計画の推進」のですね、225ページ、計画の進行管理のところで、公募市民、あるいは市内の事業者等を委員として参加いただいております。環境審議会について触れる部分があるのですけれども、この中で、市民が直接進めている取組や施策の状況について進捗状況を確認して、そこに意見を述べて市はそれを施策に生かしていくというPDCAが一応ありますので、この部分を改めて説明の中で少し強調するかあるいは付け加 |

| | |
|---|---|
| | える形で説明をさせていただくのはいかがかなと思ったところでございます。<br>続いて第３番目の分野横断につきまして、私の方で、こちら文書の方作成した時には、渡邊委員からご指摘ありましたとおり、主に他分野間での横断ということに目がいってしまっておりましたので、それぞれの分野を支えている主体間での連携という部分が抜けていたなと今ちょっと考えたところでございます。<br>あとで渡邊委員からの文案をいただいて、（現在の計画案が）こちら一般の方が目にした時にできるだけ分かっていただきやすいようにかみくだいた言葉で書いておりましたので、その中でちょっと可能であれば調整をさせて加えるということを考えたいところであったのですが、 仮に加えるとなった時の場所ですけれども、ページでいうと212ページ、213、214のあたりになるかと思います。３-３の「分野を超えた協働でウェルビーイングを目指す」の後に、渡邊委員の方では地域循環共生圏等の項目ということでのご提案でございましたが、 実は、この３-３が一応書いたものとしては最後の盛り上がりで締めた文章になってございまして、ウェルビーイングを目指すというところで最後締めたつもりでございましたので、もしその部分であれば３-２の後にその部分をつなげて膨らませるというイメージで、地域循環共生圏に触れるということで、３-２と３-３の間に入れさせていただくと計画書としては少し助かるかなというところでございます。<br>あと最後の脱炭素分野の取組、施策の具体化の部分です。<br>こちらもご意見をいただいた後に事務局の方で検討をしておりまして、委員のご指摘のとおり、具体的には取組、施策の項目の中に一つ追加をするというところで同じように考えておりました。最後にご紹介いただいたその文言の部分で、市、行政側の取組、施策としてご提案いただく文言を文書の中身を拝見した上で入れるというのがよろしいのかなというのが１点と、もう一つは事業者の取組の中に率先して再エネを利用していくという部分がありますので、そこの部分に自社だけで解決をするというような視点の他にご家庭、他の事業者、行政を利用するでも良いと思うのですが、様々な主体でエネルギーの利用をしていくという考え方、ちょっと広い考え方を差し込もうかなというところで今アイデアを持ったところです。<br>事務局からは以上でございます。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございました。<br>多岐に渡っていて、なかなか全部把握するのは難しくなっちゃいましたね。１個ずつやっていけば良かったかもしれませんね。直さなきゃいけないかどうかっていうことで求められているのが、167ページの一人一人の取組っていうところに協働というようなイメージが入ってない、入れた方がいいのではないかっていうことなのですが、 実は協働取組って一番初めに加えたので、すべての項目に協働取組っていうのが入ってこなくてはいけなくて、ここだけではないのですよね。<br>どういうふうに書き込んでいくかっていうところかなっていう気はするのですけども、地域循環共生圏についてのところ、加えるとかですね、結構、本体を加えるようなところがあるのですけれども、これどうしましょうかね。 |

| | |
|---|---|
| | 分野別環境像の生活環境の一人一人の取組だけに限定的に書かれちゃっているところ、一人一人の取組、もちろん積み上げていく必要があるのだけど、横のつながりとか、そういうのをどう表現するかっていうところかなっていう気はするのですけれども、長くなっちゃうのですよね。長くなってもいいのだったら、一人の取組と、様々な主体の協働によってというようなイメージだと思うのですけどね。豊かな環境を目指すっていう、そういうイメージかなっていう気もするのですけども、確かに、取組自体はいろんな協働していかないといけないところがあるので、どうでしょうかね。名称まで変えるかどうか、これ変えるとどうなっちゃうのですか |
| 大内副主幹 | 登場する分野別環境像は全部直しますが、ただ、あくまでタイトルに近い部分なので、それを入れても、本文にはそんなに影響はしてこない部分だと思っていたので、協働を強調していただいても結構だと思いますし、個々と協働を両方平気っていうことでも字数さえ許せば、一応だいたいここは、25文字以内で収めるようにということでやっていたところでした。 |
| 渋谷委員長 | 皆さん、いかがでしょうか。ご意見ありましたらいただきたいと思います。はい、花澤委員。 |
| 花澤委員 | 一人一人のを変えるかどうかってことですよね。<br>生活環境が特に、生活っていうタイトルからして、一般市民からすると身近に感じられる環境のところになると思うので、私は、一人一人のってなっていた方が、直接一人ができることには限界があるにしても、例えば身近に空き家があったらそれを役所に情報提供をする、一人一人が起点となってできることがたくさんあると思うので、わざわざここで協働ってしなくてもいいのかなっていうふうには思います。<br>それと、そもそもなんですけど、ここの分野別環境像の文言を変えることが、この環境基本計画を読む人にとってどれだけ響くのかっていうことを考えると、あまりこだわらなくてもいいのかなっていう気もします。以上です。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございます。<br>どこかで全体として、協働取組が進めるっていうのを冒頭の方に書き込んでおけば、全体にわたるというような感じで組み立てられれば、それはそれでいいのですかね。<br>今回、テーマが副題で協働っていうのが入ったので、どこかに全体に関わるというのを記載してもらうっていうことであれば、あんまり直さなくてもいいかもしれませんよね。どこがいいのかって今パッと浮かばないのですが、<br>基本的には直さないけど、冒頭で今回直ったのでそこの協働のところは全体に関わるという話になるので、それをどこかで明示してもらうということで、骨格はあまり変更しないということでよろしいですかね。 |

| | |
|---|---|
| 渡邊委員 | 私があえて一人一人の取組と制度のところにちょっと加えるということを考えたのは、行政も無理だから自分たちでやってねっていう、そういうふうに捉えかねないところもあるのではないかと。<br>つまり、「行政も一杯一杯だから、行政の取組」じゃなくて、やっぱり市民一人一人でやってね、みたいな。そういうふうに捉えられかねない部分もあるのではないだろうかというのがあって、すみません、行政不信持っているわけじゃないのですけど。そういうふうに捉えかねないところ、なんでも自分たちでやらないといけないのか、やっぱり協力しなきゃダメだろうっていう、そういう部分をちょっと入れたほうがいいのかなと。協働は確かに非常に中で強調されているので、いろんなところで。だからここに、みんなでやるのだよって。 |
| 大内副主幹 | はい、ありがとうございます。<br>今、渡邊委員の最後の言葉で、みんなでっていうところがあったのですけど、例えば、一人一人の取組での一人一人のを、みんなの取組で、みんなそれぞれが主役であり、たまにチームワークで協働しみんなの取組であると、どうでしょうか、ひらがなで。変ですか。 |
| 花澤委員 | 結局、４の生活環境のところだけではなくて、すべてにかかわることなので、あえてここを一人一人でを入れることが、さっきあったような役所ができないからみたいなイメージにつながるっていうのであれば、別に一人一人の取組でのところを外してしまって、気候変動も自然共生もみんなでやることなので、ここでだけで強調しなくてもいいのかなと思います。 |
| 若生委員 | はい、先ほど一人一人っていう言葉がどんな印象を与えるかって話、役所でも無理だからみんな自分でやって、というふうに取られるかもしれないっていう話もありましたけど、逆に今、役所がやってくれるのではないのか、じゃあ「俺は別にいいのでは」っていう気持ちも同じぐらいあったりして、この暮らしに関わることって、みんな自分に返ってくるけど、「私ができることをみんなが考えてやっていかないとダメだよね」っていうところ、今回の計画では丁寧に訴えている部分もあるので、その解釈の仕様というか、逆に今、「誰かがやってくれるのではないか」っていう風潮のほうが心配な部分もあるので、いい意味での一人一人、「私達が」って私目線で考えたときには、決して悪い印象を与える言葉ではないような気もするのですが、どうでしょうね。 |
| 渋谷委員長 | なかなか、解釈の取り方って変わっちゃうのかもしれないですけど。<br>一番身近な生活環境の部分なので、多分市民一人一人がっていう、一番身近なところですよね。だからこういうふうに書いたのかなという気はするので、どうですかね。その下のところに、さっき言われた一人一人やるのだけど、役所もみんなもやるのだっていうのを書いたら、その下の段のところに加えるような形で、決して |

| | |
|---|---|
| | 市が何もしないわけじゃないよっていうような、全部一緒に市がやるのもいっぱい書いてあるので、一番身近なところなので、特に市民の一人一人っていうのを強調するっていう感じですかね、これに関しては、よろしいですかね。 |
| 渡邊委員 | もちろん、私案で述べているだけなのでで。<br>私も市民の一人でありますけども、市民の方々がどう捉えるかっていうのが一番大事なので。私ごときの捉え方については、ちょっと歪んだいびつな感じでありますのでそれはいいのではないですか、捉え方がそうであれば、一人一人で。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございます。<br>いろんな捉え方があるので、そういう誤解を生まないような表現をどこかに加えてもらうようしてもらえばいいと思います。 |
| 大内副主幹 | はい、分かりました。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございます。直さなきゃいけないのはその辺ですかね。あとは、どういうふうに加えていくかというのは具体的にさっきご提案あったので、それを市の方で入れていただくということでお願いできればと思います。<br>それでは他の委員さん、今のご意見も踏まえながらでもいいですし、全体として何かございましたら。はい、花澤委員。 |
| 花澤委員 | はい、私もこれ届いた時にだいぶ分厚くなっていて、すごく頑張ったなっていう感じを受けたのですけど、見てみて写真とか図表がすごくきれいで、他の自治体との計画とは一線を画す内容で良かったのですけど、ただボリュームがあまりに多くて、読むのがとても大変でした。<br>特にですけど、多分これボリュームを絞るために例えば現状と課題のところとかも、見出しごとに１ページぐらいずつに細かく分けていると思うのですけども、それによって、多分興味がある人がそこだけ見る時には十分な情報量で頭に入るのですけども、 全体を通してみると同じことが何回も出てきている、視点を変えて繰り返し出てきているような印象がとてもあって、もうちょっと全体的にスマートにまとめられるではないかというふうに感じました。<br>現状と課題のボリュームがすごく多いのに対して、取組や施策のところのボリュームがすごいさらっとしていて、取組や施策のところも、もうちょっと充実させていけるのではないかなというふうに感じたのですけども、例えば市民と事業者とか市民団体とかで、ずらっとできることが並べられていますけども、これも例えば参加とか協力検討、応援、情報入手とか、いろいろレベルごとで簡単にできるものがあれば、ちょっとやるパワーが必要なものもあったりして、なので、初級向けとか、ちょっと環境頑張っている時の人向けみたいな、 そういうレベルに分けたりだとか、もしくは新設として今回特に重点を置いて取り組んでほしいところをもっ |

| | |
|---|---|
| | と強調表示させるとか、ここら辺をもうちょっと見やすく変えられるのではないかなというふうに思いました。<br>現状と課題のところでは、とても丁寧に解説していて、何々が必要っていう結論をそれぞれ出しているのですけども、この塗りつぶしで何とかが必要っていうのが、個別の目標にどういうふうに関わってきているのかっていうところが明確じゃないので、 ストーリーがスムーズに読めない印象を受けました。その辺はもうちょっとどこかで個別計画と整合性を取れたらいいのかなというふうには感じました。それからこのボリュームだとやっぱり目次が欲しいですね。さっきの地域循環共生圏の話じゃないですけども、あれ、どっかになかったかなと思って探そうとしたのですけど、諦めました。やっぱり、その興味がある人が、自分が見たいところに素早くアプローチできるようにするためには、これだけのボリュームがあると、やっぱり目次が必要なのではっていうふうには感じていました。<br>あと、大事なところで言ったら、計画の推進、第 4 章のところですね。ここもちょっとあっさりしているのですけど、結局どんなに計画を作っても、この推進のところがちゃんと回るような進行管理として作られてないと、やっぱり回っていかないなっていうのが前回の計画でとても感じていて、多分この計画の進行管理のところでも誰がやるって、いつまでにやるのかみたいなところも、ちゃんと載せた方がいいのかなっていうふうには思いました。<br>とりあえず、そんなところなのですけども、多分10月末までにこれを一定の形にするっていうのは、なかなか厳しいなと思いながら見ていたのが正直なところです。なので、この後、例えば今あったように、渡邊委員とか、私の方から出ていた意見を反映させて、これを10月末までに形にしてどういう形で共有するのかっていうところを、この場で決めていけたらいいかなというふうには思います。以上です。 |
| 渋谷委員長 | ありがとうございました。いかがでしょうか。 |
| 大内副主幹 | はい、ありがとうございます。<br>この場がいいかどうかちょっとあれなのですが、ご指摘いただいた部分で、具体的にお伺いをして対策を考えるというところが必要な部分もあるかなと思って聞いておりました。例えば取組、施策の部分の初級用版とか、面白いなと思って聞いていたのですけども、正直言うと、全部強弱をつけるのがちょっと難しかったんですね。簡単にできることはみんながやれるからそれも重要だし、事業者さんとかが協力をして、大きい何か見えるものを作るというのも、それもハードルは高いのだけど、効果は高いから重要だし。重要性をどういうふうな、見る方によって視点変わっちゃうなと思って、それでマーキングをやめたところがありました。<br>あとは目次の部分だったのですが、目次って分環像ごとに目次っていうようなことですかね。 |

| | |
|---|---|
| 花澤委員 | 本みたいな感じの分厚さなので、最後に目次っていうか、索引っていうか、単語、例えば地域循環共生圏を調べたければ何ページ見ればわかるみたいなのが、何ページに載っているみたいな。 |
| 渋谷委員長 | 用語解説ですか |
| 花澤委員 | 解説っていうか、何が何ページにあるみたいなのは。主な単語でもいいのですけど、一般の人として、例えば空き家に興味がある人だったら、ここ見ればいいかなっていうのを、ちょっとページ数として索引みたいな。 |
| 大内副主幹 | 例えば、各分環像の中で取り上げたテーマをまとめて巻末にページを表示したインデックス作るのだと検索できますよね。そういうようなイメージで一つはいいですか？用語からのインデックスは、それとは別に空き家に興味があるのだけど、さてこの計画書の中ではどこを見れば良いのだっけっていうのを、巻末を見て、あ、空き家・空き地が重要だよ、そういうテーマが表題としてあるので、その部分をページ数を見て遡れるようにすれば行き着けます。全体をサイトマップのような形で、分野別環境像の中で取り上げているテーマをマッピングできるような形っていうイメージでよろしいですかね。 |
| 花澤委員 | コラムとかも非常にたくさん面白いのが書いてあるのですけど、結局これも探すのが大変なので、一覧みたいなのは巻末にあるのですけれども、ページ数とかはないので、マイクロプラスチックがどこを見れば載っているだろうとか、なんかそういうのがわかればいいということです。 |
| 大内副主幹 | わかりました。それはちょっと対応させていただきたいと思います。<br>進行管理の部分の誰がやるかという部分については、ここの部分の計画の進捗の管理につきましては、あっさり書かせていただきました。あえて、関係審議会の役割とか様々あるのですが、図式化することでここは逆に極端に文章を少なくしようという風に心がけたところではあったので、前段の渡邊委員からのご指摘があった部分の、市民の参画の場面の一つとして、環境審議会がどのような役割を果たしているかというところと、あわせて、市が毎年度、環境報告書を取りまとめするという部分について、もうちょっと具体的に触れるというのを足してみようかなというところで考えております。 |
| 渋谷委員長 | 私ちょっと知らなかったのですけど、奥州市環境市民会議ってあるのですか |
| 大内副主幹 | はい、あります。 |
| 渋谷委員長 | そこが今後担うような感じになっているのですけれども、そういう感じでイメー |

| | |
|---|---|
| | ジされているのですか |
| 大内副主幹 | そうですね、普段は環境市民会議のおうしゅうめぐみネットの方々とチェックをしていただいて、さらにそれを踏まえて環境審議会にもお掛けするということになります。 |
| 渋谷委員長 | わかりました。他にはいかがでしょうか |
| 小島委員 | 私も具体的な意見になっちゃうのですけど、確かに、資料がカラーで作ったり写真入ったりして非常に読みやすいなっていうふうに思ったのですが、先ほども委員の方がありました、それぞれの項目に対しての必要性。我々は、ある程度知識のある人間で、必要性わかっているのですけど、それを市民の方々が具体的にどういうふうにアクションしていったらいいかっていうところ、この必要性に対してじゃあ何をアクションすればこれは解決されるのみたいなところの具体的な行動例みたいなところが、この資料で言うとマルチベネフィットのところのページになるのですかね。215ページ、これはまた具体例とはまた違うイメージですかね。 |
| 大内副主幹 | はい。たくさんの具体例の中でマルチベネフィットを生み出す一部の例をイラストで出しただけになります。 |
| 小島委員 | 逆にその市民が何かアクションを起こすきっかけみたいな、活動例みたいなやつを、わかりやすく、それぞれの必要項目に応じて、これやりましょうみたいな、そういう動機を促すような文脈につなげたら、見る側からするとわかりやすいなって思ったりもしたのですね。<br>結構活動例っていうのが、行動例っていうのが多分たくさんあるので、特定するのは非常に難しいと思うのですけど、一例としてこういうふうにすれば進みますよっていうのがあればいいなって思いました。 |
| 大内副主幹 | はい、ありがとうございます。<br>紙面のボリュームの都合もありまして、たくさん書くことはだいぶあったのですが、一応、コラムを近いところに配置をしておりました。<br>例えば熱中症のそばに市が行っている涼みどころのコラムを載せている。あと例えば151ページの食ロスのところがあるのですが、年間経済損失４兆円っていうのは、その記事の右側に食ロスを具体的に回避するためのフードドライブ、フードバンクのご紹介を差し上げているとかですね、すべてのテーマに１対１ではないのですが、ごみの量を減らすためには、コンポストでゴミをどう軽くするかというコラムを差し込んでみたりして、そのテーマのそばに本文に書きたかったけど説明臭くなってしまう分をコラムとして分離して、そこだけでも読んでもらいたいなという意味で、一応くっつける形でやっておりました。 |

| | |
|---|---|
| 渋谷委員長 | 私の方からも、先ほどコラムがいっぱいあるという話があったのですけれども、書き方として、本体の中にコラムがいっぱい入っちゃっているので、本文がどこだかよく分からなくなっているので、近くに置きたいのはわかるのですが、これだけコラムがあると、本文がぶつ切りになってしまっているので、本文は本文で固めておいて、関連する項目のところにコラム番号みたいなのがあって、コラムは後ろに集めちゃうと。それで、本体をスーッと読めるようにしておく方がいいのかなっていう気がちょっとしています。これだけコラムがあるとちょっと本文がどこだか分からなくなっちゃうっていうことが一つあるのかなっていうことと、先ほどからご指摘があった、途中途中にすごく分かりやすいのですが、現状がこうで、例えば、リサイクル意識とかなんとかが必要っていう項目が入ってくるのですよね。それに対して、施策の方で、取組、施策の指標とか活動指標とか、方向性みたいなところがあるのですけど、このなんとかが必要っていうものに対応するような形で、後ろの方でちゃんと必要と書いてあるけど、対策はどうなっているのか時々飛んでいるのがあって、そこら辺の一貫性っていうか、なんとかが必要だったら、それに対してどう取り組むかっていう組み合わせみたいなのを整理しておかなきゃいけないのかなっていう気がしています。コラムに答えが書いてあるような感じもあるのですけど、対策のところとか、方向性に連動するような感じで整理しておく必要があるのかなって思いました。<br>それと、これは重大なのですけど、指標ですよね。<br>状態指標と活動指標があって、この内容の中身と状態指標と、それからそれに対してどういう活動するとこれが減るのかっていうのが、一致してないのがあったりするので、その辺の分かりやすさというのがちょっと必要なのかなと思います。<br>あと、根本的なことで言うと、活動指標に関して現状がこのぐらいで、目標があまりにもはっきりしない、数値目標になってないのですよね。<br>例えば、160ページとかだと、状態目標が今１人あたりのごみの排出量とか書いてあって、望ましい方向が書いてあって、それをやるために何をするかっていうのが下に書いてあるのですけど、望ましい方向はこれ減ればいいっていうだけなのでいいのですけど、目標が出前講座を増やしますっていうことなのですが、増加させていくっていうだけだと、例えば１回でもやれば増加しちゃうので、それでいいのっていうのが、どこまでやるのかっていうのがよく分からなくて、最近のこういう目標値だと、数値目標できちっと出すのが一般的になっているような気がするのですけど、他のやつも例えば維持または増加させるっていう表現があったりするので、それだと維持するだけになっちゃうので状態指標は良くならないというような気がするのですよね。 他の指標に関しては今回初めて出てきたので、他の町のなんかだと、ほとんど何年度に目標値頑張りますって言って、どのぐらい進捗したかを毎年チェックしていくっていうやり方が多いのですけど、増加させていくっていう、どこまで増加するのかっていうのは、ちょっと目標としてははっきりしないのは、あんまり最近の計画としてはあんまり見たことがないような気がするのですけどね。 |

| | |
|---|---|
| | ギチギチに決めちゃうのがいいかどうかっていうのもあるのですけど、かといって、ちょっとでも増えればOKっていう話になっちゃうので、そこら辺をどうするかですよね。<br>毎年ちゃんとチェックするっていうことなのですが、ほんのちょっとでも増えればOKになっちゃうのでいいのかなということですね、ちょっと疑問に思う点があるのですけど。ひとつは分かりやすく中を整理してもらえればなっていうのと、指標に関しては若干どうしたものかなっていう気がします。 |
| 大内副主幹 | ２点、かなり大きいご指摘という印象でございます。<br>コラムと本文の差については、文字のフォントのポイント数を変える、あと枠囲みですね、一応８月の段階で花澤委員からご指摘をいただきまして、委員長がおっしゃるとおり本文のそのぶつ切り感というかその部分がちょっと気になるから、せめて本文とコラム等の差を何らかの形でというところでのご意見をいただいていましたので本文については文字の大きさで言うと11ポイントですが、コラムの中については文字の大きさを10ポイントでちょっと小さくしてやっております。<br>コラムをどこかに寄せてしまうと、先ほど小島委員からいただいた意見へのご回答として申し上げた機能が失われてしまうということと、本文のデザイン全部変えることになりますので、はっきり言って事務局ではもうパンクするなと思って印象を得たところでございました。ですので、デザインの部分で変えられるなら、本文の他に当然グラフとかも入ってこざるを得ないところがありますので、そこのところは今から締めを大改造するのがちょっと厳しいなと思っているところです。<br>続いて、２点目のご指摘であります、その指標の考え方という部分についてです。第３回の委員会の際に、指標についてご説明を申し上げましたが、今回、市の総合計画と並行して整合性を取りつつ考えていきますというものの一つとして、指標の置き方については、各分野の現在の状態をその年度ごとにモニタリングするための状態指標と、あと成果指標と、そのどういう活動をしているかということを確認するための活動指標ということで、３本立てでということでのご説明を差し上げていたところです。状態指標につきましては、自治体、私たち行政とかですね、あるいは市民、事業者が、誰かの取組で完全にコントロールできないものということでの位置づけでの状態を表す指標ということでの位置づけでしたので、ここに目標を設定するのはちょっと難しいかなというところです。<br>逆にそれらを直接的に変えるわけではないのですが、各分野別環境像の中で必要とされることに基づいて設定したそのアクションの活動量とかを確認、毎年度していくための指標としては、活動指標というところで置かせていただきましたが、その部分も委員長のご指摘でありますと、より具体的な数値的な目標の方を設定ということでのご指摘だったかと思います。<br>特に他部局の行政、総合計画の方からの指標の引用をさせていただいている部分につきましては、総合計画の方で目標値が増やす、増加させるとか、減少させるといったような方向性を示すだけの表現になっているので、その下位計画であります |

| | |
|---|---|
| | 環境基本計画においてだけ数値的なものを設定するというのはちょっと難しい部分があります。<br>逆に、第２次計画までの計画の指標で言いますと、生活環境課のGX推進室の方でやっていくことになります、ごみとか環境学習とか、そういった部分については、第２次計画と同様に一定程度の数値的な部分を考えていくというのは可能かなというところでした。以上でございます。 |
| 渋谷委員長 | 私もよく分からなかったのは、状態指標っていうのがこの計画書に基づくと、2023年度の状態、現状とかは出るのですけど、その後の、毎年変わるわけですよね。 |
| 大内副主幹 | はい。 |
| 渋谷委員長 | それを例えば71ページとか、最初に状態指標が出てくるのですが、ここにこれは毎年変わるのですっていうのを書かないとですね、ずっとこの計画書はこのまま固定されてしまうので、この状態指標は古いまま残っている状態になるわけです。<br>そのチェックをするのは、これから一番初め、花澤さんとかもいろいろあった、最終的にチェックをする段階で、今年はこうでしたっていう状態が出されて、それに対して活動がどうだったっていう評価が毎年出てくる形になるので、そういうのがわかるようにしておいてもらえればいいかなって気がします。 |
| 大内副主幹 | わかりました。 |
| 渋谷委員長 | じゃないと、このまま状態変わんないまま、この計画書自体はこれでフィックスされてしまうので、動かなくなっちゃうのですよね。<br>で実は毎年動く資料になるというお話なので、そこはわかりやすくして、意味をわかりやすくしていただく必要があるのかなというふうに思います。<br>あと、指標の目標については、私の意見はそうなのだけど、他の委員さんも要するにこれからのチェックがすごく大事になるっていうことですよね。<br>この段階では増加させるっていう漠然とした話になるのですが、 後々毎年のチェックの人たちがすごく大変になるというか、どこまでなら伸びているのっていうのを判断しなきゃいけないってことになってくるので、そこら辺の、むしろ先行管理の方が非常に重要になる計画づくりかなっていう気がちょっとしています。<br>本来ならば、目標は書いてしまえば、それに対してどこまで進んでいるのかっていうのをチェックすればいいだけになるのですが、かなり先々この計画が進んでいるかどうかを判断する人たちに委ねちゃう計画づくりですよね。 |
| 大内副主幹 | 決してそういうわけではないのですが。 |

| | |
|---|---|
| 渋谷委員長 | 役所的には楽は楽かなって気はするのですけれども。ここらへんについてご意見もしあれば、他の計画、市の計画からこういう計画が多いのであれば、それで整合取れているということになるので、問題はないのですけどね。 |
| 渡邊委員 | 今、委員長が言われたように、確かに推進体制と考えるとなかなか難しい課題があるなというふうに思いました。 これは、環境審議会が毎年毎年、進捗状況を評価するってことになるのですか。確かに評価っていうことを考えると、非常に難しいですよね。数値が出てくるとこれは簡単ですよね。$CO_2$が減ったとか。それは簡単だしあるいは環境関係の団体に住民が増えたとか数で出てくるのは簡単なのですけど、それ以外のものに関しては、進捗状況っていうのはすごく評価としては難しいなと思いました。あるいはこういうふうに思った人が５％増えたとか、それはインチキなのですけど本当はね。よくあるのですけども私の経験では。だからなかなかそこは、でもそこまでを決めるということではないのですね、この審議会では |
| 大内副主幹 | そうですね |
| 渡邊委員 | 範囲ではないと。範囲とすると、なかなかこれからまた大変だなと思ったのですけどね。今言われたように。 |
| 渋谷委員長 | 市の上位計画がこういう作り方になっているということなので、下位だけ細かくなるというのも、それはちょっとおかしいのかもしれないのですけど、 総合計画の方がどういうふうな判断をするかっていうのが、ちょっとわからないので、質問したのですけれども。 |
| 若生委員 | 以前、例えば環境学習の回数とか実際の数値でいくつから上げていくとかっていう出し方をしていた時も少し前にはあったのですけども、 現状として学校数が随分減ってしまったりして、数で追っていくと逆に見えづらくなるものもあったりとか、 前は数字で出していたけれど、指標が噛み合ってないものがたくさんあったという逆のこともあったので、 今回の出し方がどうなのかというのをちょっと様子見ながら、数字は決して何も出さないわけではなくて、現状と比較していくっていうことであったので、 単なる比較じゃなくて、何年か比べてみた時に良くなっているのかとか悪くなっているのかとか、変わらないのかっていうのが、どこかできちんと見られるようなものを表していって、ちょっと様子を見たいかなというところもあるのですけれども、いかがでしょうか。 |
| 渋谷委員長 | 要はだから、他の人に任せるって話ですよね。今こういう書き方をしているだけなので、この委員会ではこれで良しとしたと、いいのですよ。でも進んだかどうかっていうのは、別の人が判断しなければいけないので、環境審議会なり、環境、組織別判断する際の運営ですかね、運用する時の人が判断していただくということ |

| | |
|---|---|
| | であれば全然構わないです。ただ、拠り所がちょっとでも増えればいいし、維持するだけでいいのかとか、維持だったら減らさないようにすればずっといっちゃうわけです。維持増加するということは維持でもいいわけで、例えばイベントの状態指標が、環境学習の場合だったら、理解度がどのくらいかっていうのをやるのにいろんな活動をして、その結果がこっちに反映するわけですけども、どのくらい増加させればこうなるかってわからないので、確かにこういうやり方もあると思うのですけどね。 |
| 花澤委員 | 結局、その状態指標っていうのが、これを見ることによって、目指す環境目標だったり、分野別環境像だったりが、いい方向に向かって解決、環境課題が解決しているかっていうのを測るための状態指標だとすると、状態指標では数値は必要だと思っていて、ただ、その状態指標が例えば、環境教育のさっき言った206ページのところだと、果たしてその環境学習やイベントの参加者の理解度が増えていけば、奥州市は環境を育む人のつながりと学びにあふれる地域になるのかっていうことを考えると、そもそも同じ人ばっかりが参加して、その人の理解度が上がっていったとしても、 参加する人が増えない限り、環境を育む人が増えたっていうふうには言えないというふうに、やっぱり今ある状態指標だったり活動指標だったりが、ちゃんと求める分野別環境像につながっているのかっていうのは、ある程度もう一回確認する必要あると思いますし、その状態指標がどうなるかっていうのを、そのまま追うことは難しいから、多分活動指標っていうのを作っているのであって、その活動指標が維持増加させていくっていうのは、別に私はいいと思っていて。ただ、やっぱりこれも条件付きで、この活動指標の増加がちゃんと状態指標の改善につながっていけばいいと思うのですけど、そうなってないものもいくつか見受けられるので、 例えば、ごみ・リサイクルの出前講座の実施回数が多少増えれば、状態指標が改善されて、すごい奥州市のごみ関係は良くなるのかって言ったらそうではないことが前回の環境基本計画の時から言われているので、この辺の指標っていうのは、もう一回整理した方がいいのかなとは思います。<br>あと、105ページの年度適用の状態指標が、1時間あたりの市内の降水量とか、猛暑日の年間日数とかになっていますが、多分これは操作できる、制御できる状態指標じゃないので、活動をいくら頑張ったとしても、ここの状態指標は変わらないと思いますし、ある程度自分たちが操作できて、その上で奥州市の環境が良くなっているっていうふうなことを判断できるような状態指標と活動指標の設定っていうのをやっていった方がいいのかなとは思います |
| 大内副主幹 | 事務局の作成した指標の表示の部分の言葉足らずなところがありまして、申し訳ありません。状態指標につきましては、各分野別環境像を実現するための指標ではなくて、逆に言うと、各分野別環境像の置かれている背景、状態を把握するための指標というところで挙げさせていただいております。成果とかそういうものを求める指標ではなく、コントロールが不可能な指標なので、適応の分の、例えばここを |

| | |
|---|---|
| | 指標というところで、毎年度確実に把握、補足できる数値というところで、気象庁のホームページの方から探した部分だったのですが、適応分野の熱中症等に関わる部分、あるいは災害等に関わる部分として、その背景となっているものを指し示す道標として強い雨の降る降水量の状態とか猛暑日の市内の年間日数とかを挙げさせていただいているということになります。なので、状態指標をダイレクトに良くするために、クリティカルな指標、あるいは活動というのが今回の状態指標についてはないのですね。あくまでその分野の中の背景が今どうなっているのかというのを客観的に見るための指標というふうにお考えいただくと、そうすると、状態はあくまで状態です。毎年暑い日が増えているのかどうか、あと、事業系ごみの年間排出量がどうなっているのか、これは経済の例えば動向とかにも左右されつつ動く数字であると。ただ、ごみの行政部分を考えた場合には、それを一つ背景として構成する要素としてモニタリングしておくことは役に立つだろうという部分ですね。なので、そのあたり私の方で説明が足りなかったので、大変申し訳なかったのですが、状態指標については、直接コントロールできないのだけれども、対象の分野のその時の状態をモニタリングするための指標というふうな位置づけで今回設定をしております。<br>逆に言うと、活動指標については、その各分野で先ほどお話ありました、○○が必要といった部分に対して取組が当てられていて、その取組の中でその活動の量をどのぐらい市民の方が理解いただいているのか、参加いただいているのかっていうのを拾ってきているっていうような流れで考えておりました。以上です。 |
| 渋谷委員長 | ご理解いただけましたでしょうか。<br>市民の人が見た時に、なかなか理解が難しいかもしれないですよね。上と下を比べて見ちゃうので、 どうしてもあれ対応してないねとかいうふうに見えてしまうかなと思うので説明は十分にしなきゃいけないかなという気がしますね。あと、なんとか必要って書いてあるやつが、全て活動指標に移っている。例えば、本文のところに下の方にまとめて、なんか必要だよねって書いてあるのが活動指標になっているということですよね。 |
| 大内副主幹 | はい。全部ではないですが、全部はすさまじい数になってしまうので、代表的なものを取り上げております。 |
| 渋谷委員長 | その辺の説明を最初に出てきたところあたりでしておく必要があるかなっていう気がしますね。指標っていうことが要はわかりにくいということですね。 |
| 大内副主幹 | 今、委員長とか若生委員のご指摘を聞いていまして、指標の置き方だったのですが、指標全体の役割についての説明は、それは加えるということの他に、状態指標の部分を各分野別環境像の冒頭辺りに持ってきてしまうっていうのをちょっと今考えておりました。 |

| | |
|---|---|
| | 例えば、83ページの分野別環境像1適用の気候変動適応対策の、ここに現状と課題を各テーマ最初にまとめて書いてありまして、北上川が氾濫している様子のところのあたりに、その状況の状態を示す指標として持ってくると、強い雨、あるいは熱中症とかについてここは一つ指標としてモニタリングしていきますよというような形で入れるというのはいかがかなと思ったところです。状態指標と活動指標がセットで表示されているので、これは事務局のデザインの失敗だったのですけれども、その部分をぐっと切り離して役割を明確にするというふうにするのはいかがかなと思ったところです。 |
| 渋谷委員長 | ご意見とかございますか |
| 若生委員 | 状態指標の望ましい方向が書きやすいものと書けないものがあるような気がして、例えば市内の１時間あたりの最大降水量とかっていうのは、私たちがどう逃してこうなったらいいねっていうことが難しいけれども、例えば汚水処理人口の普及率とかっていうのは、一人一人が関われば上げていけるっていう部分もあって、望ましい方向を書いて適しているものと書かれても及ぶ範囲じゃないところの望ましい方向になっているのが全部一緒に書いてあるとまた悩むのですけど、どうなのでしょうね。 |
| 大内副主幹 | 総計と切り離してもいいですか。総計がそういう判断しているので。<br>指標という言葉の役割については総合計画から来ております。ただ中身については、総合計画までそのとおり１時間あたりの降水量なんていうことは触れていないので、これは環境基本計画の適応分野の部分で取り出しただけです。例えば、その状態指標という言葉については、総合計画とのリンクを図って、指標の中身をコピーしてきたわけではないのですが、一つの指標の表現の仕方として、総合計画とリンクを図っている部分になりますので、その部分については、その役割等をご紹介するページを設けるということと、あとその各分野別環境像にその状態指標という部分の言葉を出さざるを得ないという部分を市が維持するのに合わせて、そこに個々にさらにその現在の状態を表す現状の何々ですというような形で説明を個々に加えていくっていう形で補足をさせていただくっていうのではいかがでしょうか。 |
| 渋谷委員長 | 質問なのですけど総合計画のほうの状態指標っていうのがあるのですよね。<br>それと並べ方は同じなのですかね。状態指標があって、活動指標があるっていうのは、総合計画も同じ？ |
| 大内副主幹 | 同じですね。 |
| 渋谷委員長 | だとすると、この形にしかならないのですね。 |

| | |
|---|---|
| 大内副主幹 | 並び上は崩しても多分大丈夫です。 |
| 渋谷委員長 | というか、総合計画の指標の考え方と一致しなきゃいけないので、下位計画なので。 |
| 千葉GX推進室長 | （状態指標や成果指標などが）続けて並んでいるわけはないです |
| 渋谷委員長 | 続けてはないのですよね。じゃあ、場所を変えても大丈夫。 |
| 大内副主幹 | それは大丈夫です。 |
| 渋谷委員長 | わかりました。<br>じゃあ、総合計画に近い形で整理された方がいいのかなって気がするのですけど。私、総合計画見てないので、よくわからないのですけど。多分、総合計画は総合計画でその考え方で整理されていて、それに準拠して、この計画ができてくるので、整合を取った方がいいのかなって。上位計画の枠組みで下位計画が作られる方がいいので、 似たような形にしてもらうといいのかなって気がするのですけど、どういうふうになっているのか、よく理解してないので。総合計画も新しくこういう仕組みになったのですか。 |
| 大内副主幹 | そうです。 |
| 千葉GX推進室長 | 総合計画につきましては、地区説明を行って、パブリックコメントをやっている最中で、その素案における作り、構成としてはそれぞれの分野があって、それぞれの政策があって、その政策を実現することによって、目指す目標の姿っていうのが書き込まれて、その次に対象となる状態指標が表記されているという形になります。その次に、関連する個別計画がどういったものがあるよという記述があって、じゃあ、その施策の対象の現状と課題が書き込みされて、さらにそれを踏まえて、どういった事業をやっていくのかというのが記載されて、その次に成果指標であったり、書き込まれているというのが総合計画の記述になりますので、 全てその状態指標と成果指標が続けて書かれているというものではなくて、やはりその状態がどういう状態があって、どういう状態の指標になるのか、それを解決すべきどういう事業をやっていくのかというのがあって、その次に指標があるという順番になりますので、 むしろ、今先ほど事務局担当の方から申し述べた内容の方が、総合計画の作りには合うような感じになるのかと思います。以上です。 |
| 渋谷委員長 | 例えば、たまたま190ページ開けちゃっているのですけど、例えば190ページぐらいだと、状態指標があって実はその次、193ページに取組とか施策があって、その後に活動指標っていうような並べ方って感じですね。これ、上下にあるから多分混 |

| | |
|---|---|
| | 乱するのは確かなのですけれども、 並べ方を変えるといいですかね。多分活動指標っていうのは、取組とか施策、市民とかあって、この中の代表的なものを活動指標として取り上げていきますよっていう感じの整理なのですかね。 |
| 大内副主幹 | そうですね、はい。 |
| 渋谷委員長 | 先にそれが出ちゃっているから、つながりがよくわからないっていう感じになっているので、並べ方の問題だったら。そんなに大変な作業ではない。 |
| 大内副主幹 | ありがとうございます。ここの位置は維持するか、最初のページに持ってくるかはちょっと確認します。 |
| 渋谷委員長 | ですから総合性、上位計画の流れをこちらにもちゃんと持ってきてもらって、その考え方も総合計画の考え方をちゃんと書いてもらって、同じような流れを作ってもらうと、総合計画とのリンクがわかりやすいのかなって気がするのですけれども、イメージとしてはそんな感じでしょうか。 |
| 花澤委員 | 関連するところ一点だけいいですか？成果指標がないのは意図的になくしているのですね、維持、増加させていくというのは、むしろ活動指標よりも成果指標のほうが合っているのかなと思ったのですが、成果指標があることで課題の達成、解決にどれだけ近づいているのかなというのが見えて、そこにどういうアプローチができるのかが活動指標になると思うので、成果指標も活動指標と同じくらい重要になるのではないかと思ったのですが。 |
| 大内副主幹 | ありがとうございます。<br>成果指標の置き方については、第３回の委員会の時にこの計画自体を主役という部分で、行政だけではなくて、市民・事業所の方も参加されるという部分であった時に、 その成果の、それを成果として言えるかということで、様々ご議論いただいた経緯がありましたので、一旦その活動指標ということで入れております。<br>ただ、中には例えばわかりやすいと思って、私の中では例として挙げるのが、環境教育・環境イベントへの参加者数は活動指標、その中に参加された方々の環境とか環境問題の理解度は成果指標としても捉えてもいいのかなと思っていたところでしたが、その個々の事業としての成果としては、参加者数が多いことは活動だし、たくさん理解してより次のアクションにつながるような人材が育った可能性があるということは、 成果指標というふうに捉えていいのであれば、今、活動指標の中に一回入れているものの中でも、そういう意味では個々の事業としての成果の方に挙げることもやぶさかではないのですが、 ただ、第３回の議論の時には、その目指すべき環境像や、その環境として課題として扱ったテーマ、施策のその先のテーマとしての成果として言えるかということでの疑問が呈されたと記憶してありましたの |

| | |
|---|---|
| | で、なので今回は活動指標の方に振っています。事務事業につきましては、市の事務事業すべてから生まれる成果として温室効果ガスをダイレクトに減らすという意気込みも含めてありますので、その部分は成果指標ということで今回設定をしたというような考え方でやってみました。 |
| 渋谷委員長 | ありがとうございます。<br><br>（10分休憩に入る） |
| 渋谷委員長 | 先ほどからの議論で、総合計画の流れがちょっとわかったので、それに沿って位置を変えてもらうようにしたいと思います。<br>大きく変更するわけじゃなくて、場所が変わるっていう感じのイメージになると思います。あと、先ほど私もコラムをどっかに集めたらっていう話もあって、なかなか難しいって話になったので、 コラムのフォントをゴシック、丸ゴシックとか、ゴシック体にして、本文は明朝で大きな文章にして、コラムはゴシックにするともうちょっと小さくできる可能性もあるのですけど、小さいと見えなくなってしまうので。多分この大きさのゴシックだったら、なんとか見られるかなと思いますし、違いがはっきりわかると思いますので、 その辺でちょっとわかりやすく修正してもらおうかなというふうには思います。<br>他には何かございますか。 |
| 花澤委員 | 7ページからある奥州市の概要が、これたぶん前回の環境基本計画にちょっと肉付けしたような感じだと思うのですけど、やっぱり例えば河川とかダムみたいな水面もないし、森林利用のところの面積はあっても漁業、農業利用のものはないし、中途半端だなあっていう印象を受けたので、ここはもうちょっと充実させることはできないのかなと思うのですけど、どうでしょう。 |
| 大内副主幹 | 昨年度行いました基礎調査の結果の範囲内であれば。あと拾ってこられる利用可能な情報の範囲内であればですが、 どうしてもページが増えます。<br>一つ、この場を借りてということだったのですが、出店断層について触れているのですね。地震という部分が、環境基本計画でいうところのものと、ちょっと毛色が違うなというのはずっと、4年ぐらい前からの環境審議委員の希望で中間見直しを令和3年度に行った際に載ってきた部分であるのですけれども、 その地震っていう部分に、生活環境ということで触れれば、実は地震に対しては今回の計画の本文内では全くノーマークになっています。あくまで自然的な地形の特徴として、断層があるよということに触れている形にはなっているのですが、最初のご指摘の部分については、事務局の方で準備できる範囲内でちょっと検討はさせていただきます。<br>逆に2点目につきましては、断層、地震について触れるかどうかについて、逆に |

| | |
|---|---|
| | 言うとご結論をいただければと思います。 |
| 花澤委員 | そうですね、確かに奥州市の概要として、地質とか土質を入れるのはあったとしても、断層を入れるっていうのはなかなか見ないですけど、（環境審議会委員）の先生の思いもわかるので、話がなんとも。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございます。<br>18ページの記述に対応する形で20ページのものが出ているのですよね。<br>胆沢扇状地に関してこの断層が非常に重要であれば、記述はいると思うのですけど、20ページの図でいうと、A断面図がないのですよ。上の断面切っているのに、断面図がないので、あんまり意味がないなって思ってはいたのですけど。下の図は逆に、上の図の下半分ぐらいしか出てないので、一致してないのですよね。だから、この辺の図はもし載っけるにしても１枚でもいいのかなって気がします。断面図入れるか、その断層のものだけにするか、どっちか。両方いっぺんに図示できるなら、占領地のやつと断層の図をいっぺんに描いてしまえば１枚で済むかなと。それにプラスして、河川とか、そういうものの情報の、一応17ページには川の位置なんかも書いてはあるのですけれども。<br>あと足すものありますか? 足した方がいいっていうもの。河川の状態は17ページには書いてあるのです。記述がないってことですか? |
| 花澤委員 | 河川、例えば、どういう基準で選んでいるのかわからないのですけど、１級河川として、広瀬川とかも結構距離20キロぐらいあるやつが載っていなかったりとか。なんか、入っているのと入ってないのがあるのがよくわからないのと、アンケートでも奥州市のいいところが河川っていう意見が多かった中で、この概要のところに河川がほとんど記述もなく、森林はあるのに河川はない。河川はどういうふうに今、我々が利用していて、これ今後さっき言った地域循環共生圏の中でどういうふうに役立てていくのかっていうところにもない。 |
| 渋谷委員長 | 川の恵みっていうところには、やっぱり森と川とつながりみたいなところだと、川をちゃんと書く必要がある。 |
| 花澤委員 | そうですね、グリーンインフラとかでも重要だと思うので |
| 渋谷委員長 | わかりました。その記述とそれに対する位置関係を示すものが一致していれば、ちょっと直してもらえばできるかなって気がするのですけど。 |
| 千葉GX推進室長 | 私の方からなのですが、奥州市内のいわゆる川ってほぼほぼ河川じゃなくて堰なので、多分河川で拾ったのでなかったりするのが多いと思うので、堰で拾わないと無いので、ちょっとそういった地図があるかどうか確認した上で、あれば対応して |

| | |
|---|---|
| | いきたいなと思います。要は、水沢や前沢は、ほぼほぼ堰なので、今のご指摘はその通りだと思いますので、ちょっとそういった出典の図があるかどうか確認した上で、あるものについては載せるよう努力はしていきたいなと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。 |
| 花澤委員 | はい、そうですね。胆沢ダムも有名なので、ぜひ載せてください。 |
| 佐々木委員 | 先ほどから何名かの方がおっしゃるとおり、大内さんが家にこの資料を持ってきて手渡されて、持った瞬間にこの厚さは何？と、いうふうなところを感じましたし、袋から出してこのページを見ると、全部読まなきゃいけないのだろうなと思いながら、つらつら読んでいますと、すごい出来上がりが素晴らしいなというふうなところを感じました。難しい文章を読んでいる中の時折に、星の写真だったりいろんな桜の写真だったりなど入っていて、心やすまる部分が非常にあったところが読んでいてもほっとする部分っていうのは時折ありました。<br>ただ、何回か最初からめくって読んでいると、そのうち、あれ、これ環境基本計画書だよな、観光ガイドブックみたいにもちょっと時折思えるなっていうところが、私の気持ちの不思議な部分が、ちょっとそういったふうな感じがあったというところを、お伝えしたいと思います。<br>話は変わりますけれども、めぐみネットの活動の中で、私もリサイクル工作というところで、ペットボトルを使ったり、ペットボトルは地球の石油という資源からできているのだよ、これをきれいに洗ってリサイクルすると、資源の節約にもつながるよっていうふうなことを話していましたけれども、この文章の中からまたそれを引用させてもらえるような文言もありましたので、 非常に私としては教科書的に使わせてもらえる部分も結構あるなというふうに感じております。あとリサイクルの取組だとか、捨てられたペットボトルがどうなるかっていう部分も記載して、これは読んだ人、あるいは市民の誰もが協力できる部分ではあるのかなというふうに感じていたのですけれども、このページだったかな、 非常にしばらくぶりで見る、懐かしいなっていうふうな部分、169ページの光害に対するコメントなのですけれども、こういった文章は私、非常に久しぶりに見るなっていうふうに感じる部分です。<br>実は、胆沢病院が30年前に現在の場所に移転される時の説明会に、住民の一人として参加しまして、当時、天文同好会っていうのは自分でも主催しておりましたので、 あまり明るくないような照明、駐車場照明にしてほしい、看板照明も当初は下から看板を照り上げる、上に向かって照り上げるっていうものだったのですけれども、 それが今は文字が浮くような、光がぼんやりするような形、あとは駐車場の照明と三角のこういう裾が広がって、光が横に照らし出されるような水銀灯だったのですけれども、ここの図にあるように、ほぼ真下に向かって照り下げる、 横に光が漏れないというふうなものに検討し直してもらって設置してもらったっていう記憶がございます。その後、近くに（金融機関支店）ができた時の支店長さんにもお願 |

| | |
|---|---|
| | いして、 駐車場の明かりは24時間夜だけ照らし続けているっていうのを聞いたものですから、それも上半分を黒いビニールテープで貼って、光が横方向以上、上に行かないものっていうものに製作し直してもらった経験もございます。<br>最後に当時の（市内のスーパー）が出店するという説明会にも参加しましたけれども、「あなたのように夜電気を明るくつけないでほしいっていう要望は時折ありますけれども、お客様の出入りする安全性を考えると、どうしても明るいものを明るくし続けなければならないというふうなところがございます。これから先、いろんな店舗が増えるにあたっては、あなたのような考え方もわかりますけれども、なかなか言い続けることが難しくなる時代が来ることになりますよ」って言われた記憶もあります。<br>ですので、ここでこの文章を非常に私にとっては嬉しいし、ありがたいですけれども、条例でもなければこういったことはちょっと実施できない世の中になっているのかなとは思いますので、一般市民がこれを見て、そうだよね、こうしなきゃいけないよねっていう訴えはちょっと難しいのかなというふうなところを 私の気持ちは載せて、こうしてほしいという部分はあるのですけれども、なかなかこれからの時代、コンビニは24時間営業ですし、明かりがなければお客さんも安全に出入りできないところがあるっていうふうにも聞いています。そういったところではなかなか訴えとして入れて載せることはいいとは思うのですけれども、実行できにくい状況なんじゃないのかなっていうふうにはちょっと思います。<br>あともう一つですね、その隣170ページに環境への影響ということでいろんな健康被害に関するところはありますけれども、数ヶ月前にNHKのテレビでやっていたのですけれども、プラスチックが劣化して５ミリ以下になるとマイクロプラスチックになるというふうな番組がありました。海に流れたプラスチックがマイクロプラスチックを超えてナノプラスチックっていうものに変化すると。それを摂取した実例としてアメリカでの医療現場の人が語っていたのは、そのナノプラスチックが血液の中に入っていくと、体内の中で栄養素が付着して、本来プラスチックは脳の中で吸収されることはないのだけれども、血液の栄養分に包まれてしまったナノプラスチックが脳の中に入っていく。その脳の中に入ったプラスチックが脳梗塞的な健康被害を起こしている実例が出てきているというふうな話もありましたので、プラスチックの部分のコメントもそういったところの健康被害というところでご検討いただくこともあってもいいのかなということをお話ししたいと思います。以上です。 |
| 渋谷委員長 | 176ページのところで、ちょっとだけ触れているのです。その前のページからですね、若干触れてまだもっと細かいやつは書いてないのですけど。 |
| 若生委員 | 今回、手に取って、はじめにの文章を読んだ時にすごく嬉しくなって、ちっちゃい頃田んぼで働いているとどんどん暗くなって、藍色がずっと濃くなって夜になってくみたいな、奥州市に住んで暮らして農業していたり、ここに暮らしている人の気持ちが書いてあるような気がして、私はまず、このはじめにを読んだ時すごくなん |

| | |
|---|---|
| | かちょっとグッときました。全編いろいろ美しい風景が入っているのもなんですけれども、環境基本計画読んでいるのではなくて、なんか本当に手に取って読みたくなるような一冊の本を読んでいるような楽しさがあって、今までの環境基本計画とはまた別の、今まで読んだことない人にも手に取ってもらったらいいなと思いながら読みました。<br>その中でとっても大事な、私たちも自然の一部で、地球の中の本当に人間っていうささやかな存在で、今こんなに大変なのだよっていうことと、だから一人一人がやっていかなきゃいけないことがあるよねっていうのを、 説教臭くもなく押し付けがましくもなく、わかりやすくよく書いてくださったなと思いましたというのが、手に取って読んだ感想でした。なので、ボリュームはとってもあったのですけども、なんか、 船を編むっていう映画とか小説をこう見ているような、もしかしてこの人たちは環境基本計画じゃなくて辞書作っている人たちじゃないの？と思うくらい、いろんなところにその本作っている人の思いをちょっと勝手に感じたりして、ありがとうございました。単なる本当にお礼でした。<br>ありがとうございました。 |
| 渋谷委員長 | ありがとうございます。<br>確かに、他の町とかだとここまで書いてあるのは少ないかなって気がしました。<br>こんなにきれいなところがあるのだなって改めて奥州市のすばらしさを実感できるかなという写真がたくさんあったので。 |
| 花澤委員 | そこに関連して、分かりやすいものの一つにAIで作っている資料、図が結構分かりやすいのですけど、文字が小さくてすごく見づらいのですけど、これは例えば最低の文字の大きさみたいなのは決まってないのですかね。あまりに文字が小さいと、これ文字なくても一緒じゃないかと思うような感じもするのですけど。もしくは、図がもうちょっと大きくならないのかなっていうふうに感じました。 |
| 大内副主幹 | はい、AIでやるとどうしてもあの説明くさく文字をつける癖があるようでございまして、極限まで図の方に頼るように作っていただいているところでございました。紙面上の制約もありますが、直すところで可能であれば、検討はしてみたいと思いますが、伝えたいことがやっぱり多すぎて詰め込み感は、自分でも思っていたのですけども、ただちょっと外せないネタもそれぞれにやっぱりありましたので、そこら辺は可能な範囲でということでお許しいただければと思います。 |
| 渋谷委員長 | これは印刷媒体だけじゃなくて、ウェブ版とか作られますか。 |
| 大内副主幹 | はい。 |
| 渋谷委員長 | そちらの方で大きくできるようにしてもらうとか、そういうのを併用すればいいの |

| | |
|---|---|
| | かなって気はしますね。確かに小さくてよく見えないので。他にはいかがでしょうか? |
| 若生委員 | 概要版なんて作らないですよね |
| 大内副主幹 | 作ります。大丈夫です。概要版は4ページ。パワポで2ページ以内に収められればと思います。 |
| 渋谷委員長 | あとお願いなのですけど、花巻市は子供たち版を作っていて、子供たちがちょっと分かるようなものも作っていただけると、学校で使ってもらえるかなって気がする。これを学校で読めと言ってもなかなか難しいと思うので。 |
| 大内副主幹 | 来年度、おうしゅうめぐみネットの方々と協力して、めぐみネットの方々が学校等含めて、様々な形で環境学習の講師をお勤めいただいていますので、そういった視点も盛り込みながらそういった場で活用できるような資材を、検討を一緒にしようというふうに考えているところです。以上です。 |
| 渋谷委員長 | はい、ありがとうございます。<br>多分この辺に図表とかを使って色々できると思いますので、学校教育課長さんいらっしゃいますけど、学校の方でも活用できるようなものになるといいかなという気がしますので。是非よろしくお願いします。 |
| 花澤委員 | すみません、結局これは10月末までにどういう形になる予定ですか？ |
| 大内副主幹 | はい、ありがとうございます。<br>今までのご協議の中で、修正が必要な部分、例えば指標に関する説明のページの追加、総合計画を踏まえた各指標との配置のやり直し、コラム等の掲載の変更、その他のコラム、テーマ、用語等のインデックス機能の追加など、あと概要版ですね、概要の部分での図等の検討などを行いまして、10月の来週半ばぐらいまでには形に見えるように事務局の方で頑張らせていただきます。渡邊委員からもいただく文書の例とかも含めて、計画の中の文書の雰囲気というか体裁に合わせて溶け込ませていくということも含めてやらせていただきたいと思っております。 |
| 花澤委員 | ありがとうございます。そうすると、これはまた郵送されてくる感じですか？ |
| 大内副主幹 | はい、ありがとうございます。<br>訂正版を今ちょっとまだ委員長の方でご発言ないところでしたが、事務局の方で内容についてまずお示しを、委員長の方に差し上げてご了解いただいた上で、環境審議会の委員への送付と合わせて、計画策定委員の皆様にも同時にお送りを差し上げ |

| | |
|---|---|
| | たいというふうに考えているところでございます。 |
| 渋谷委員長 | よろしいでしょうか。<br>ということで、今回、環境審議会に出さなきゃいけないと、パブコメ用の案を作らなければいけないということなので、とりあえず私に一任させていただいてよろしいでしょうかね。その上で皆さんにお返しするという流れを作っていきたいと思います。<br>それではもう５時近くなりますので、その他につきまして事務局からお願いします。 |
| ４　その他 | |
| 大内副主幹 | 今回の資料の最後のページとなります。<br>次回、予定では最終の委員会の予定でございます。２月３日火曜日午後２時から会場こちらで予定しておりましたので、ぜひご多忙の時期とは存じますが、ご参加いただきますようお願い申し上げます。 |
| 渋谷委員長 | それでは、委員の皆様から何かございますか。それでは、これで今日の協議は終了となります。事務局に進行をお返ししたいと思います。どうもありがとうございました。 |
| ５　閉会 | |
| 及川主幹 | 渋谷先生ありがとうございました。それでは４番の大きいその他も進めていただきましたので、閉会とさせていただきます。<br>以上をもちまして、第５回奥州市環境基本計画策定委員会を閉会いたします。大変ありがとうございました。 |